

世羅町重要文化財 木造鬼面

昭和59年5月15日指定

祭祀用に使用された鬼の面で、木彫りに茶漆塗、眉の部分には黒漆がかかっています。頭部に植毛の跡が残っており、また牙には金が塗られています。下顎したあごの一部を欠損している他は、元からの姿をとどめています。

井原八幡神社は社暦では、康保元年（九六四）、伊尾・小谷・松崎の氏子たちにより、宝札が納められたと伝え、神社は現位置より東方一町（約一〇九m）余離れた北沼にあったものを移したといわれています。南北朝時代の暦応2年（一三三九）に再建し、その後、明応2年（一四九三）・慶長20年（一六一五）・元和5年（一六一九）・元禄4年（一六九一）と再建されています。

神社には古くは多くの古面が伝えられていたとされていますが、現在はこの鬼面のみとなっています。



広島県重要文化財 木造大日如来坐像

昭和28年6月23日指定

もと、今高野山の塔の岡にあった多宝塔の本尊で、玉眼漆箔ぎよくがんしつぱくの寄木造です。像高は66.9cmで、光背・台座も含めて完存しており、鎌倉時代末の仏像として貴重な像です。胎内銘が確認されており、多数の梵字とともに元亨三年（一二三三）の年号と「源近宗」の文字が判読されています。

また、胸飾りの瓔珞ようらくの破片が塔跡から見つかっていることから、多宝塔の本尊であったことがはっきりしています。

なお、塔の丘の多宝塔は、鎌倉時代末期の元亨三年（一二三三）十月に仏子了信によって建立されたことが、尾道の浄土寺に伝わる「今高野山多宝塔建立供養願文」（草本）から明らかとなっており、この仏子了信は、大田庄の役人である雑掌をしていた久代了信（良信）とされています。

また、多宝塔の古瓦も塔の岡から採取され、世羅町大田庄歴史館に展示されています。

